

蘭越と議員インターンシップ

-大学生が笑って泣いて考えた2ヶ月間-



米屋 孝貢

はじめに 見たことも聞いたこともない町

札幌の大学に通学している僕が蘭越町という地名を知ったのは、つい一年前の春休みのことでした。それまでは蘭越町はどこなのか、何が有名で、どういう人が住んでいるのか、そもそも蘭越町が存在していることさえも知らない状態でした。そんな蘭越の蘭の字も知らない僕に、

「蘭越町長に政策提言をしてみろ！」
というまったく理解できない課題が課されることになりました。

蘭越町は、人口約5200人、ニセコ連峰などに囲まれた盆地で、道南最大級の河川である尻別川を抱き、尻別川から引いた水を利用した蘭越米は日本でも有名です。また温泉でも有名で、蘭越町各地で温泉が湧き出ており、そこからニセコ温泉郷と呼ばれております。

蘭越町を知ったきっかけは議員インターンシップへの参加でした。大学生が春休みの2ヶ月間（2月～3月）を利用して、札幌を含め道内各地の議員の元にインターンシップするもので、僕も生の政治の現場が見てみたいなあ、他の大学生とは違うことやってカッコつけた

いなあ、と随分と簡単な気持ちで参加しました。

そして、札幌生まれ札幌育ちの僕が、なぜか蘭越町議会議員の琵琶博之議員（以下琵琶議員）の元にインターンシップすることが決まり、ここで初めて「蘭越」という言葉を耳にすることとなりました。また僕の他にもうひとり同じインターン生がいて、合わせて2名でのインターンシップでした。そして息もつかぬままインターンシップ先が決定した数日後に、琵琶議員と初めて電話越しでお話をしまして、その時に琵琶議員から課された課題が町長への政策提言でした。

そもそも政策提言のやりかたも知らないし、蘭越についても知らない僕が、いわば町のコンサルティングを行うという、町民にとってはありがた迷惑な話だったと思います。

そんな見ず知らずの町にインターンシップを行い、ごくごく普通の大学生が春休みの2ヶ月間、蘭越町で行った政策提言の一部始終を僕の体験談を通じてご紹介できればと思います。



第一回 Skype 会議の様子

1. 蘭越初上陸 激闘の2泊3日

2月3日、雪がチラチラと降るなか、約3時間かけて札幌からJRで蘭越に向かいました。この蘭越初上陸の目的は、2泊3日の蘭越での活動を通して、蘭越の現状を知り、蘭越の課題が何なのか把握するものでした。そのために2つの活動を行いました。1つ目が約20名の蘭越町民へのヒアリングで、2つ目が蘭越町及び町の施設の見学でした。

初日、蘭越に到着して、駅で琵琶議員と合流し、そのままの足で施設見学と有識者へのヒアリングを行いました。ニセコ町と蘭越町を比較するとどうなのかという視点で、ニセコの見学を行いニセコへの期待値が高まり、蘭越町へますます思いを馳せる次第です。1日目だけで、3人の方からヒアリングを行いました。それぞれ工業、農業、まちづくりに力を入れておられる方々です。やはり地方独特の問題が存在しており、システム的な問題や住民的な問題など多岐に及んでおり、どれも解決するためにはまだまだ勉強が必要だと考えさせられるばかりでした。ただ、よりよい暮らし、よりよいまちづくりのために奔走する姿をみて、目指すべき方向は同じだと認識できただけでも、個人的には大収穫でした。工業も、農業も、まちづくりも共通課題なのが人手でした。人手不足と消費者が少ないということ。これに着目することになりました。

なお初日の宿泊場所は幽泉閣という町営温泉で、非常に施設の中も清潔で、観光客向けの仕様になっていました。



ヒアリング調査の様子

2日目はひたすらヒアリングです。この日だけで5人にヒアリングを行うことができました。分野としてはおおまかに金融、福祉、観光です。ここでもやはり人手であったり、高齢化人口に着目したり、といった課題が多かったです。北海道の集落問題の一つとして人口比率や後継者問題があがっており、人口が増えている地方自治体は多くなく、この問題を解決できればモデルケースとして全道を巻き込めるのではないかと考えました。もちろん簡単なことではないのは自明です。でも目指すなら、モデルケースにできるような町長提案にできるように、ただひたすらヒアリングを行い現状分析に努めるのです。

なお2日目は雪秩父という硫黄温泉の香りのする宿に泊まりました。海外からウインタースポーツをしに来ている方などで賑わっていました。

3日目は簡単なヒアリングと温泉に入り、疲れを癒しました。入ったのは新見温泉。露天風呂が圧巻で、まさに自然のなかにある秘湯という感じでした。

そして3日間の激闘とも言えるヒアリングを終え、ここから自分の蘭越町の理想像を考え、そこから課題の抽出をおこなうこととなります。

新見温泉



雪秩父



2. 葛藤の日々

無事にヒアリングを終え、理想状態の設定に移りました。たかが3日間ばかり蘭越にいた若造がもちろん蘭越の全てを把握できるわけでもないですが、せめて札幌市民からみた、また大学生からみた蘭越町の視点で、蘭越をプロデュースしたいという方向性になり、意見の出し合い、チェック、ブラッシュアップなどを延々に繰り返し、気がつけば3月に入っていました。もちろんその間には、集落の問題をとりあげたセミナーに出席したり、在宅ワークについての勉強会に出席したりと、活動をしました。これがというのが思いつかなかったのです。

そして大学生同士での勉強会を開催したり、インターンシップの報告会に参加したりして、他の大学生などと交流していくうちに、あることに気がつきました。

「大学生は蘭越町を知らないのか……。」

初心を思い出しました。自分もずっと蘭越町を知らないでいて、蘭越の魅力を感じたことを思い出し、

「蘭越町をしらない人たちにも蘭越の魅力を伝えたい」

と思うようになり、自分たちででき、実現可能性が高い企画を考えるようになりました。

そして行きついたのが「大学祭」でした。蘭越町以外の人たちが多数参加し、しかも自分たちで行え、実現可能性が高いと思えました。自分の大学の大学祭で蘭越町をPRできるような企画を行おうと考え、まとめ、町長の提案資料としてまとめました。

当時の企画書

■企画書概要欄

町営博之舘員インターン生 村山達也
米屋孝真

1. 基本的な考え方

◆目的

観光と特産品販売の促進により、農産工・観光業者の収入向上

◆基本的な考え方

(ステップ 1) 町の強み、魅力等を再発見する。観光コンテンツや特産物を売り込むためには、魅力やモノの再認識が必要!

(ステップ 2) 観光の知名度を上げる

同品質の食品、同内容の観光プログラムでも、知名度によって売れ方が違う!

(ステップ 3) 観光客のサイクルと特産品販売のルートを作る

一過性のものではなく、将来にわたって続いていく仕組みに!

2. 施策の方向性

◆方向性

インターン生(ドットジェイビー・北海道大学等)の受け入れを行い、インターン生が、自らできることを実践してもらう

◆期待される効果

(ステップ 1) 町外の人間であるインターン生と町民、役場、議員との交流や議論の中で、町の魅力を再認識する

(ステップ 2) インターン生が主体的に、町の広告塔として発信する

(ステップ 3) 定期的に新しい人間がコミュニティーに加わることで、新たな施策や付加価値が生まれ続ける

3. 施策内容①: 大学祭での特産品出展

◆目的

- ・観光という名前を札幌の人に知ってもらう
- ・観光の米と野菜を札幌の人に食べてもらい、PRする

◆概要

北大祭(6月6日~6日)で観光町の米と野菜を活かした料理(観光カレー、観光おにぎり等)を販売する。同時に、観光町の魅力を伝える写真展を実施する。

◆メリット

- ・場所代がかからず人も集まるので、費用対効果が高い
- ・インターン生で実施可能
- ・学生食堂のフェア出展等への関係も期待できる

4. 施策内容②: 観光マイグァーフォトラリー

◆目的

- ・観光の自然を人々に体感してもらう
- ・観光の自然の魅力をネット上で発信してもらう(インターン生含む)

◆概要

町内にいくつかのフォトスポットを設定。特典を付与することにより、フォトスポットで撮った写真を参加者のFacebookに投稿してもらう。

◆メリット

- ・観光町の費用で、町の自然を大々的にPRできる
- ・運営は基本的にフォトスポットを設定し、示すだけ
- ・観光協会やフェイスブック会との連携も可能

2. いざ町長提案へ

いまいちど企画をご紹介しましょう。



■狙い■

蘭越町の特産物の販売促進により、農業従事者、の収入増加を見込む

■目的■

蘭越町の知名度を札幌で向上させる

■蘭越プロデューのステップ■

1. 町の強み、魅力の再発見
2. 蘭越の知名度向上
3. 観光客のサイクルと特産物の販売ルートの確保

■概要■

大学祭で模擬店出店

北大祭で蘭越町のお米を活かした料理を販売する。同時に蘭越町の写真展示など行い、PRをおこなう。

■メリット■

1. 費用対効果が高い
2. インターン生で実施可能
3. 生協への進出も可能(?)



蘭越町のブランドである、蘭越米を利用した料理を出品することで、蘭越町をPRしようというものです。町長への提案は成功し、蘭越米を支援していただけることになりました。メディアにもとりあげていただき、蘭越町のPRは一気に全道を駆け巡りました。

大学生2人、町にPRプラン提出



北大祭で蘭越町のPRをうける2人の学生と町長村山さん（左）と栗原さん

蘭越産料理 北大祭で

【蘭越】北大生2人が取り組んできた、まちづくりプランがまとまった。町内産の米と野菜を使った料理を北大祭で提供し、若者や札幌の人たちに町の魅力をPRするなどの内容で、学生の視点を生かした具体的な提案が並ぶ。2人は11日、町役場で宮内町長とプランを提出した。（及川靖）

2人は法学部4年の村山を山田、らんこし米などの産出先と経済学部1年の栗原を山田と提供して町をPRする。この町内に複数のフォレストもに札幌市在住。学生にポットを販売、インターネット生や観光客が撮影した羊蹄山など自然の写真をフェイスブックで発信する。いずれも安い費用で大きな効果が期待できるとしている。

宮内町長は「町外の視座で蘭越の良さや課題を見つけ、提案してくれてありがたい。情報店などにも協力したい」と歓迎。2人は「町民が町の魅力をPRする時に、このプランが参考になれば」と話し、今後は情報店などの実現に向けた計画作りを進める予定だ。

ネットでも発信も

2人は法学部4年の村山を山田、らんこし米などの産出先と経済学部1年の栗原を山田と提供して町をPRする。この町内に複数のフォレストもに札幌市在住。学生にポットを販売、インターネット生や観光客が撮影した羊蹄山など自然の写真をフェイスブックで発信する。いずれも安い費用で大きな効果が期待できるとしている。

3. さくらに

大学祭での模擬店出店は大成功に終わり、総売上は約1000食にも至りました。また蘭越のパンフレットは全て配布でき、大好評のうちに幕切れとなりました。蘭越米の可能性を感じる4日間でした。

しかしこれで終わったわけではありません。まだまだ蘭越のプロデュースは続きます。自分の大学生活が続く限り、蘭越町に何かしらの形で参画できれば幸いです。

インターシップの2ヶ月を通して、蘭越町の魅力を知り、蘭越町を好きになりました。関係者各位に心から感謝申し上げます。

米屋孝貢

蘭越と議員インターンシップ

「大学生が笑って泣いて考えた2ヶ月間」

2014年3月1日 発行

著者 米屋 孝貢

発行 米屋 孝貢

出版 らんこし作家デビュー・プロジェクト